

平成19年度
前期

日本語論述

13 : 30 ~ 15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて2枚ある。
- 3 解答用紙(25字×40行=1000字)は、2枚ある。
- 4 解答用紙は、2枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1 ~ 4 のうちから 1 題を選択し、1600 ~ 2000 字の日本語
(横書き)で解答しなさい。

【問題 1】

近年、通信・郵便・交通から、医療・福祉・水道といった社会保障やライフラインに及ぶ、これまで政府が担ってきた様々な公共サービスや社会的機能を、積極的に外部に委託する「民営化」や「小さな政府」の動きが盛んである。このような社会における、新しい公共性あるいは公共サービスとはどのようなものか論じなさい。

【問題 2】

国際化したスポーツにおいては、時に一部の国または地域に有利なようにルールが変更されることがある。スポーツの国際化とルール設定のあり方について考えるところを述べなさい。

【問題 3】

近年、国際社会で必要とされる英語力が論じられているが、(英語に限らず)言語教育の前提として「グローバル化」や「グローバリゼーション」を掲げることについてどう思うか。「グローバル化」や「グローバリゼーション」の内容について、あなたの考えを示した上で論じなさい。

【問題 4】

報道において、正確であることは可能なのだろうか。あるいは、どのようにすれば正確な報道は可能となるのだろうか。イギリスの放送局BBCでは現在、イラクの大量破壊兵器をめぐるギリガン記者の疑惑報道をきっかけとして、局内に「ジャーナリズム大学」を設立し、報道メディアの意義を問い直す試みが行われつつある。同大学アンナ・マケイン研究部長による次の言葉を参考に、報道の正確さについて自由に論じなさい。

ギリガン報道は大筋で正しくても、複数の情報源にあたらぬミスを犯し、正確さを欠いた。正確さこそ最も優先すべき価値であることを再認識すべきだ

(出典:「客観報道」再構築へ 動き出したBBC「ジャーナリズム大学」、朝日新聞、2006年6月14日)